

在日米陸軍・第1軍団前方司令部
マイケル・ハリソン司令官殿

陸上自衛隊 座間分屯地
石丸威司 司令殿

キャンプ座間への米陸軍第1軍団の移駐を歓迎しない会
共同代表 金子豊貴男、牧嶋とよ子

第1軍団前方司令部発足から4年にあたって(申入れ)

ここキャンプ座間に、米陸軍第1軍団前方司令部が発足して4年が経過しようとしています。私たちは、2007年12月19日の第1軍団前方司令部発足にあたり、反対の意思を示す行動を行いました。その後も、毎年12月には抗議行動をおこなってきました。

2006年に日米両政府が合意した在日米軍再編のロードマップでは、キャンプ座間には米陸軍第1軍団司令部の移駐、およびそれとセットになった陸上自衛隊中央即応集団司令部の移駐が明記されました。私たちは、これらが基地機能の強化であり、市民の基地返還要求に全く反するものであること、そして日米軍事一体化のより一層の深化をもくろむものであることなどを指摘しました。

在日米軍の再編強化は着々と進んでいます。相模補給廠には戦闘(任務)指揮訓練センターが建設され、今年8月に開所式がおこなわれました。第1軍団前方司令部は、すでに実戦を想定した自衛隊との共同訓練や演習を始めています。今年6月の日米安保協議委員会(2+2)でも「米陸軍司令部能力の改善」を確認しています。

昨年末の「新防衛大綱」では、日本の防衛政策を、従来の「基盤的防衛力構想」から機動力や即応力を重視する「動的防衛力」へと変更し、米国のグローバルな戦争に自衛隊実戦部隊を組み込む方向を打ち出しました。キャンプ座間への司令部移駐が予定されている陸上自衛隊中央即応集団は、海外派兵や対「テロ」・ゲリラ戦を想定した特殊任務部隊です。

しかし、私たちは、在日米軍再編が予定通り進んでいない点にも注目せざるを得ません。沖縄では、辺野古への新基地建設にめどがたたない状況となり、普天間飛行場の移転と海兵隊のグアム移転が進められなくなっています。米国議会では、2012年度予算のグアム移転費が削除される事態となっています。米海兵隊の一部が、オーストラリアへも配備されると報道されました。辺野古新基地建設にめどが立たないことも影響していると言われています。米軍再編そのものが見直され、変化してきています。

キャンプ座間に「移駐」とされた米陸軍第1軍団司令部は、実際には、**前方司令部**となり、部隊の人員増も限定されたものとなりました。にもかかわらず、自衛隊の中央即応集団司令部の移駐は予定通り進められようとしています。司令部の移駐に向け、庁舎、隊舎の建設工事が始まっています。また、座間市域の返還予定地に、家族宿舎を建設する準備が進められています。政府の来年度予算案では、キャンプ座間の自衛隊が“駐屯地”へ格上げ(人員増)されています。私たちは、基地機能の強化と恒久化につながる中央即応集団司令部の移駐を、予定通り進めようとすることに賛成できません。税金の無駄遣いでもあります。これら工事はただちに中止すべきです。

私たちは、基地の縮小・廃止、返還へむけて以下のことを要請します。

- ・米陸軍第1軍団前方司令部を廃止、ただちにキャンプ座間から撤収すること
- ・陸上自衛隊中央即応集団司令部のキャンプ座間への移駐を中止すること
- ・キャンプ座間のヘリコプター騒音など、基地による周辺住民に対する被害をなくすこと
- ・沖縄・辺野古、高江への新基地建設を止めること
- ・在日、在沖米軍基地を閉鎖、返還すること